寺社を巡る会

活　動　記　録　書

開 催 日： 令和６年１月１２日(金)　　天候　晴	開催テーマ： 浄楽寺運慶仏特別拝観と芦名周辺を巡る
開催場所： 横須賀市	記 入 者： 熊 谷 滋 子
参加人数：会員　２９名　ビジター３名　　合計３２名	

実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題　など）：

コース：浄楽寺バス停（集合）⇒ 十二所神社 ⇒ 淡島神社 ⇒ 芦名城址 ⇒ 浄楽寺（運慶仏特別拝観）⇒ 前田川遊歩道 ⇒ 正行院 ⇒ 若命家長屋門 ⇒ 神明社 ⇒ 若命家長屋門前（解散）

前日の寒さはやわらぎ快晴の中、よこすかシティガイド協会の案内で探訪した。

富士山を所々で見ながら住宅地の坂道を進み十二所神社を訪ねた。十二所は鎌倉の読み方とは違い「じゅうにしょ」と読む。古くは十二天明神と呼ばれた。芦名城の鎮護の為に創建されたと伝わる。また北条政子の安産祈願の為に、頼朝に代わり義明の子佐原十郎義達が参詣した。現在の本殿は寛政元年頃の建立とされる。

続いて淡島神社を訪ねる。急な階段を上がると明るい色の社がある。紀州の加太淡島明神を勧請したとされ縁結びや安産にご利益があるとされる。三月三日に催される底抜けの柄杓の柄に麻を結んで奉納する祭礼は、横須賀市内で行われる最も古くから民間信仰を伝える行事の一つである。

しばらく進むと大楠小学校がある。ここは芦名城址で三浦義明の弟芦名為清の館や砦が有ったとされる。小学校の辺りは御館（みたち）、脇の丘は城山と呼ばれている。

集合場所に戻って来たその先に浄楽寺がある。浄土宗の寺院。1189 年和田義盛と夫人の小野氏の発願により建立され、運慶が慶派の頭になる前の 30 代後半の作品である仏像５体（彫眼の阿弥陀如来坐像、観音菩薩立像、勢至菩薩立像、玉眼の不動明王立像、毘沙門天立像）が安置されている。毘沙門天と不動明王の像内から木札が発見され５体すべてが運慶作と認められた。運慶仏の拝観の折りには往時のお参りを彷彿させる「暗闇参り」を行った。ろうそくの火のみによって次第に浮かび上がってくる仏像、そして副住職によるお経は神秘的で幻想的な一時であった。またこの浄楽寺は前島密の菩提寺でもある。

浄楽寺を後にし、口々に感動を語りながら歩いていると前田川遊歩道に出る。木道、飛び石と少し足場の悪い所もあったが、遊歩道を少し歩いて正行院に向かう。

正行院は和田義盛が妻の巴御前の菩提寺として創建し後に鎌倉光明寺観譽祐崇上人が現在の地に移したと伝わる。

若命（わかめい）家長屋門は代々名主を務めた若命家の表門で欅材の大扉、左右になまこ壁の納屋、畳部屋、そして米蔵がある。本陣の役目もあったので宿舎として提供していた。

門の先にある階段を上がると神明社がある。若命家が葛原から来た時に奉載したと伝わる神明社の他、八坂神社、両稲荷神社、海神社、御嶽神社がある。

全行程を終了し解散後、若命家の奥様が門の外に出てこられ、中に入れて頂き、長屋門の中まで見せて下さった。宿札や上級役人の墨書など貴重な資料を見る事ができた。解散後の事だったので見る事が出来ない人もあったのが残念だった。

参加者の状況・意見など：

新年最初の探訪はお天気にも恵まれとても素晴らしかったという声を多く聞いた。

次回の予定：

令和６年２月１日（木）14 時 金沢公会堂多目的室

ＤＶＤ鑑賞　「国宝へようこそ」　①姫路城　②迎賓館赤坂離宮